

道、なお遠し

文部科学省は8月8日、小学校6年生と中学校3年生を対象に行った全国学力・学習状況調査の結果を発表しました。

その結果は下表のとおりとなっています。

◎小学校

	北海道	全 国	秋田県
国語A	79.0	81.6	86.9
国語B	53.5	55.6	63.0
算数A	69.6	73.3	79.5
算数B	55.8	58.9	64.0
理 科	58.8	60.9	68.4

◎中学校

	北海道	全 国	秋田県
国語A	74.2	75.1	79.7
国語B	63.1	63.3	70.3
算数A	60.8	62.1	67.4
算数B	48.1	49.3	56.7
理 科	50.5	51.0	56.1

今回の調査結果について、文部科学省は「ほとんどの自治体の平均正答率は全国平均の上下5%以内であり、上位と下位の自治体を除けばばらつきは小さく、自治体間の順位も入れ替わっており、固定化の認識はない」と評価しています（8月9日付読売新聞）。

しかし、上記の表を見てもわかるように、北海道の子ども達の正答率は、小中学校共に全国平均を下回っており、学力調査を始めた当初と比較するとその差は縮まって来たように感じますが、しかし大変残念な結果となっています。

また、全国平均に近づきつつあるとはいっても、学力上位県の秋田県と比較

すると、その差は歴然としています。

2011年に北海道の高橋教育長は「2014年度の調査までに、道内の学力を全国平均以上にする」と宣言し、子ども達の学力向上に向け独自のテスト問題の配布や指導に優れた教員による巡回指導の拡充など、対策を強化して来ました。今回の学力調査は、そうした道教委の取り組みの成果が問われる事にもなりましたが、結果は、「道、なお遠し」というのが現実です。この点について、道教委の武藤義務教育課長は「改善の兆しはみられるが、全体としては極めて深刻。全教科とも基礎部分が足りない」として（8月9日付北海道新聞）危機感を募らせています。

結局、今回の学力調査の結果は、学力向上については短兵急に成果が出るものではないという、当たり前な事を改めて示した形となっています。何故なら、小学6年の学力調査は、小学1年からの学習の成果が問われているのであり、中学3年の学力調査は、中学1年からの学習の成果のみならず、小学1年からの接続した学習の成果が問われている訳ですから、学力向上に取り組んでもその成果が見えるまでにはそれ相応の時間が必要だということです。従って、学力向上は、焦っても仕方ありませんが、今後も着実に、しかも継続して対策を講じて行く必要があります。

まず大事な事は、教育委員会や学校は今回の調査結果を良く分析し、自分達の取り組みの成果をしっかりと検証する事だと思います。自分達としては最善の取り組みだと思っても、実際にそれが成果を出したのかどうか検証しない限り、いたずらに先に進んでも意味がありません。特に、各学校、各教師の皆さんは、個々の子ども達に光を当てて、教育実践とその結果について客観的な評価をすべきです。

頑張るのは当たり前で、頑張った結果がどうだったのかという検証こそが重要です。

教師の皆さんが、自分の教育実践に対する検証や評価を恐れ、避けるなら、子ども達の学力向上など望むべくもありません。（塾頭 吉田 洋一）